

令和 6 年5月1日

先月はお客様と一緒にハーフマラソン大会に参加してきました。

思えば、新年の挨拶回りの際、お客様から「マラソン大会に参加しようよ!」とお誘いを受け、「分かりました」とお答えしたことから始まりました。

マラソン大会にあたっては、2つの心配事がありました。1つは、お客様に満足していただけるかどうか。もう1つは、私自身がちゃんと完走できるかどうか。

1つ目の、お客様に満足していただけるかどうかについては、結構思い悩みました。大会をチョイスするのは私なので、いろいろ考えました。大阪だと、淀川の河川敷を往復するもの、大阪城や長居公園をぐるぐる周回するもの、などちょっと面白みに欠けるな、と。お客様は2月に京都マラソンを走られるので、風光明媚な都大路を走られた後にそれらの大阪の大会だと、つまらないだろうと。お客様の立場に立って、何が楽しいだろうと、「相手の心地よさを創造しよう」(当社の経営理念)の実践ですね、大阪から外に目を向け、リゾート地のマラソン大会をチョイスしました。結果、お客様には楽しんでいただき、笑顔で終えることができました。

2つ目の、私自身がちゃんと完走できるかどうかについては、実際、完走できました。練習はそこそやりましたからね。まあその間にコロナに感染してしまったりして、その時は練習できなかったですが。平日の夜、こそ練(こそこそと練習)やってたんですが、その姿を近所の知り合いの方に見られて、「走ってましたね」と言われた時は恥ずかしかったですけどね。でも、練習のおかげで、どのくらいのペースで走れば大丈夫なのかが分かったし、完走につながりました。

2つの心配事が解消され、楽しい大会となって良かったと思います。

もう1つ、良かったなと思うのは、私自身が「心のゆとり」を持って大会に臨むことができたということです。先程申し上げたように、そこそ練習を積んできたので、「このペースで走れば大丈夫」という自信があったんでしょね、どんなに後ろから追い抜かれても自分のペースを崩さずに落ち着いて走ることができました。以前の自分なら、追い抜かれたらその人についていって抜き返そうとして自滅していたんじゃないかなと思います。心のゆとりのおかげで大会全体を見通すことができたということです。

この、心のゆとりというのは、いろんな場面で必要とされますね。

例えば、車を運転していて、片側 2 車線や 3 車線を走っている時、渋滞気味だったりすると、なんとなく隣の車線の方が進むのが速く感じて、イライラしたりムキになったり、ということもあるかと思いますが、そんな時、心のゆとりがあれば、「どうせいつかは目的地に着くんだし、全体の所要時間を考えればそんなに差はないよ」とゆったり構えることができますね。

また、スーパーマーケットでレジ待ちの列に並ぶ時、一番短い列に並びがちですが、結果的に余計に時間がかかってしまい、長い列に並んだ方が早かったというケースもあるかと思います。そんな時って、レジ打ちの人が処理が遅いからだとか、前に並んでいたお客さんのカゴの中がいっぱいだったとか、ついつい他人のせいにしてしまいますよね。そんな時、心のゆとりがあれば、「そのうち回ってくるんだし、そんなに大きく時間は変わらないよ」と余裕を持てます。これが終わったら次はこれをしよう、とかそういうことに考えが向かいます。

この心のゆとり、仕事においても必要なものです。「タイムプレッシャーのかかる仕事で心のゆとりなんて持てるか!」という方もおられるでしょうけれども、そこを敢えて持ちましょう。仕事全体を見渡すことができ、いい結果につながります。心のゆとりを持って仕事に臨みたいものです。

以上

代表取締役社長 角高哲治